

1. 調査研究の概要

(1) 調査の目的

近年、中小企業においてもマイクロエレクトロニクス技術を応用した各種自動化機械設備の導入（ME化）を図っており、積極的に技術革新に取り組む中小企業が増加している。マイクロエレクトロニクス技術の導入に伴って生産現場では、労働の内容が大きく変化し、労働者に求められる能力要件にもME化の影響が及んでいる。

本調査は、中小企業における技術革新の進展の実態、生産現場で基幹的な役割を担う監督や熟練工に求められる能力要件の変化を明らかにするとともに人材有効活用のための対策などを把握することを目的とした予備調査である。

調査対象としては、NC化や産業用ロボットの導入がめざましい金属・機械関連の業種に限定し、調査地点は、金属・機械関連の中小企業が密集している東京都大田区及び静岡県浜松市を選定した。調査対象事業所は、抽出によるかたまりを避けるため従業員30～299人の事業所全数とした。

(2) 調査の名称および実施時期

イ 調査の名称

「中小企業における技術革新の進展と人材の有効活用に関する調査」

ロ 調査の実施時期

昭和58年3月

(3) 調査対象

「昭和55年版会社事業所名鑑」記載事業所のうち東京都大田区、静岡県浜松市に所在する鉄鋼業、非鉄金属製造業、金属製品製造業、一般機械器具製造業、電気機械器具製造業、輸送用機械器具製造業、精密機械器具製造業、その他の製造業のうち従業員規模30～299人の事業所全数（821か所）

(4) 調査方法

留置法による実地自計調査

(5) 調査項目

① 産業、事業所規模

② 生産品、生産形態、販路等

③ 従業員の実態

(従業員総数、技術者数、技能者数、技術者の過不足状況、技能者の
充足方法等)

④ 監督者の確保と育成

⑤ 自動化機械設備導入状況と成果

⑥ 中堅技能者像とその育成

(6) 回収率

回収調査票 6 1 7 票 (うち無効 2 票)

回 収 率 7 5 %